

柏市教職員人材育成指針

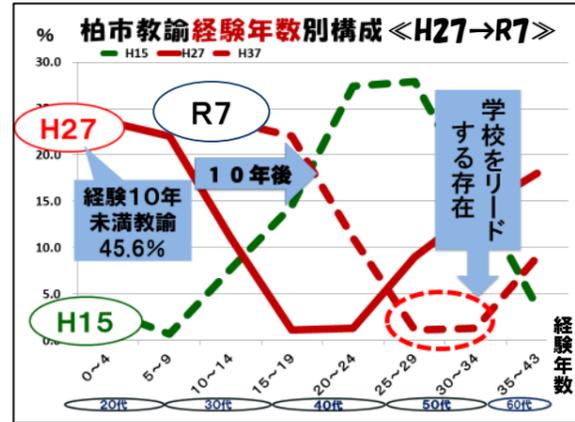
I 人材育成指針策定の趣旨

- 社会が急激に変化し、学校教育を取り巻く課題は複雑化・高度化し、今までの経験や方法では対応しきれない状況がある。
- 教職員の大量退職・大量採用により、指導力や指導技術の継承が困難な状況がある。教職員の人材育成を意図的・計画的なものへ転換するため「柏市教職員人材育成指針」を策定する。

II 人材育成を取り巻く現状と課題

人材育成と環境の変化

	(1981/S56)	(2016/H27)	意図的・計画的な育成
社会	拡大/知識	縮小/創造	
学校規模	大	小	
教職員数	多	少	
経験年数	0~14	0~9/30~	
年齢	25~34	25~34/55~60	
授業日数	240日(週6日制) 5785/3659	200日(週5日制) 5645/3045	
人間関係	スラブ/会話/職員レク	エアコン/パソコン/ジム	
保護者・地域	応援団(支援と応援)	サポーター(支援と批判)	
大学進学率	約38%	約58%	
不登校	小 0.03% 中 0.30%	小 0.42% 中 2.83%	
学習指導要領	「ゆとりと充実」	「脱ゆとり」	



- 「現状」
- ◆ 学び方の変化
 - ◆ 組織力の弱体化
 - ◆ 若年層教職員の急増
 - ◆ 主任層・管理職の若年化
 - ◆ 教育課題の複雑化・高度化
 - ◆ 教職員の多忙化・多忙感
 - ◆ 学校の小規模化
 - ◆ 知的財産の喪失
 - ◆ ミドルリーダーの不在
 - ◆ 同僚性の希薄化
 - ◆ 人材育成方針の学校差
 - ◆ 研修時間の確保の困難

- 「課題」
- ◇ 「新たな学び」への対応
 - ◇ 各職層に応じた資質能力の向上
 - ◇ 同僚性の強化と経験知の継承
 - ◇ 学校組織マネジメント力の強化
 - ◇ 目指す教職員像の共通認識
 - ◇ 効果的・効率的な人材育成の推進
 - ◇ 教職員のメンタルヘルス

意図的・計画的な人材育成が必要

III これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について (中教審の答申)

これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について (中教審の答申抜粋 1/2)

- 【研修】
- 教員の学ぶ意欲は高いが多忙で時間確保が困難
 - 自ら学び続けるモチベーションを維持できる環境整備が必要
 - アクティブ・ラーニング型研修への転換が必要
 - 初任者研修・十年経験者研修の制度や運用の見直しが必要
- 【全般的事項】
- 大学等と教育委員会の連携のための具体的な制度的枠組みが必要
 - 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等の特徴や違いを踏まえ、制度設計を進めていくことが重要
 - 新たな教育課題 (アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、ICTを用いた指導法、道徳、英語、特別支援教育) に対応した養成・研修が必要

これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について (中教審の答申抜粋 2/2)

- 養成・採用・研修を通じた方策 ~ 「教員は学校で育つ」ための、教員の学びを支援~
 - 学び続ける教員を支える キャリアシステムの構築のための体制整備
-

IV 柏市の目指す教職員の姿

教育者としての愛情と使命感を持ち、相互に力量を高め合い、連携協力して課題を解決する教職員

V 人材育成基本方針

- 1 「柏市教職員人材育成指針」に基づいて、効果的・効率的な人材育成を図る。
- 2 教職員のキャリアステージに応じて資質能力の向上を図る。
- 3 社会の変化に対応した「新たな学び」を支える「学び続ける教職員」の育成を図る。
- 4 「校外研修」、「校内研修」、「自己研鑽」の3つが相互に関連し合い、補完し合う体制の整備を図る。

「これまでの人材育成」

- ◆ 求める教職員像 (資質能力) が不明確
- ◆ 取り組むべき人材育成の方向性が不明瞭
- ◆ 各校の方針や個人の意欲に委ねて資質能力を向上
- ◆ 先輩教職員から知識・技術を継承

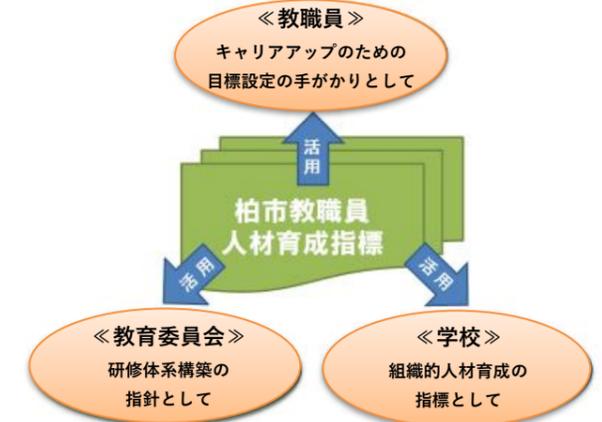
「これからの人材育成」

- ◇ 求める教職員像 (資質能力) を明示
- ◇ 意図的・計画的な人材育成の仕組みを構築
- ◇ 「校外研修」、「校内研修」、「自己研鑽」の3つの視点から資質能力を向上
- ◇ 教職員相互が支え合い、学び合い、高め合う環境を構築

3つの学び (育成) の場の関連



「人材育成指標」の活用



VI 教職員に求める資質能力 (19要素)

A 教職に必要な素養

- ① 使命感・責任感・教育的愛情・高い倫理観・コンプライアンス・服務規律の順守
- ② 社会性・コミュニケーション能力
- ③ 社会の変化への対応・広い視野・学び続ける意欲
- ④ 教職に関する教養

B 学習指導に関する実践的指導力

- ⑤ 教科等についての専門性
- ⑥ 授業実践・指導技術

C 生徒指導等に関する実践的指導力

- ⑦ 子供の発達過程や特徴の理解と信頼関係の構築・生徒指導
- ⑧ 教育相談・個別指導
- ⑨ 人権教育の推進・生徒指導上の課題への対応
- ⑩ キャリア教育・進路指導

D チーム学校を支える資質能力

- ⑪ 教育課程の管理・運用
- ⑫ 校務分掌と連携・調整
- ⑬ 家庭や地域、関係機関等との連携・協働
- ⑭ 研修 (研究) 体制

E 特別な配慮や支援を必要とする子供への対応

- ⑮ 特別な配慮や支援を必要とする子供の理解
- ⑯ 学習上・生活上の支援

F ICT や情報・教育データの利活用等

- ⑰ 学習指導に関する ICT 利活用
- ⑱ 生徒指導に関する ICT 利活用
- ⑲ ICT による校務効率化